

中国の文化政策における武術の展開

—武当山武術の観光化および競技化に着目して—

概要

現在、諸国には古くから伝承される特有の文化としての武術が存在しており、それは歴史的な変遷の中で、社会的・時代的影響を受けながら変容してきた。中国の武術においても、近代化改革を求めた中華人民共和国（1949年建国）によって近代的スポーツ体制が確立され、その要求に合わせた、武術の競技標準の制定や理念、そして、それらを取り巻く管理体制など近代的体制が創られた。その文脈上で、中央政府が中国武術をオリンピック競技種目にすることや国民の健康増進のための普及活動、そして武術産業の拡大などを政府の事業として掲げた。

本発表では、こうした現在の中国の状況を踏まえて、中国伝統武術の一つである「武当山武術」に焦点を置いて論じたい。武当山は、中国の湖北省中央に位置する武当拳発祥の地であり道士の聖地とされる場所である。そこで道士により修行の中で生まれた武術が武当山武術と称され、古来伝承の道教（道家）武術とも呼ばれるようになった。

この古来伝承されてきた武当山武術が、現在の中国政府の国策下で、政府が理想とする武術へと再構成され変容しつつある。それ故、こうした現状から中国政府が進めている文化政策の真の目的と課題を見つけ出すことは、中国の文化政策の方向性を明らかにすることであり、これによって伝統文化としての中国武術が、如何なる影響や関係性によってその伝統を再構成させていくのかを詳らかにすることになると考える。